

## 応用生物科学部平成 17 年度前学期授業の学生による評価の分析結果

平成 18 年 6 月 26 日  
自己点検評価委員会  
委員長 柵木利昭

応用生物科学部自己点検評価委員会では、学部教育の更なる改善のため、平成 16 年度に引き続き学生による授業評価を実施しました。その評価の分析結果を報告いたします。

今後、これらの評価をもとに、教員の授業内容の改善活動につなげ、アンケート内容や回答方法の見なおし、教育カリキュラムを充実し、教職員による授業改善活動を継続的に行っていく所存です。分析結果をお読みいただき、ご意見・ご要望がありましたら、学部までお寄せくだされば幸いです。

### 分析結果の概要

#### 1. 回収率について

学部全体で対象学生 893 名中 597 名がアンケートに回答し、回収率は 66.9%であった。履修科目のほとんど無い農学部生物資源生産学科、生物生産システム学科および生物資源利用学科の 4 年生 187 名を除けば実に、82.3%の回収率であった。これらの数字は昨年の 32%の回収率（昨年は学生自身がポストに投函）に比べ極めて高い。今回は最終講義等の時間中にアンケートを配布し、その場で回収するなど回収方法を改善した結果このような高い回収率となったと考えられる。さらに、詳細に検討すると回収率が上記 3 クラスを除く 13 クラス中 10 クラスは 80%以上の極めて高い回収率を示したが、1 クラスではあったが 30%台の回収率もあった。

#### 2. 評価科目、評価項目等について

評価の対象とした項目は 16 年度と全く同じもので 授業の目的、主題が明確で全体が体系付けられていたか、 理解しやすくするために資料等に配慮、工夫されていたか、 話し方、板書の仕方は適切でしたか、 質問のしやすさ、予習・復習の指導は適切でしたか、 教員が熱意を持っていると感じましたか、 授業の内容は興味あるものでしたか、 の 6 項目である。それぞれの項目を 1 (劣) から 5 (優) まで 5 段階で評価した。

基礎科目 22 科目、専門科目 112 科目の合計 134 科目を調査対象とした。その内訳は 87 科目が講義、47 科目が実習、実験および演習である。クラスの人数が 100 名を超えるものは僅か 5 科目で、99～50 名が 42 科目、49 名以下が 87 科目（65%）でありクラスの人数はほぼ適正と思われる。応用生物科学汎論は 1 年生全員の 203 名が受講する唯一の巨大クラスである。基礎科目の解析学、物理学、化学、生物学、生物統計学および情報処理演習の 6 科目はそれぞれ 3 クラスに分割し大人数クラスにならないよう配慮している。

### 3 . 総合点の概要

化学 の A と C クラスは同じ教員による講義であり、総合点がそれぞれ 3.22 と 3.34 と極めて良く似た評価がなされている。同様に同じ教員による生物学 の A、B、C クラスでも 3.91、3.78、3.69 と、生物統計学の食品生命科学課程のクラスと獣医学課程のクラスも 2.81 と 2.60 と極めて類似した評価を与え、その差は 0.22 以内である。ただ、同じ教員による解析学の B と C のクラスでは 2.99 と 3.34 とその評価にやや違いが見られたが、それでもその差は 0.35 であった。従って、この授業評価は信憑性がかなり高いと考えられる。

全授業科目 134 科目の総合点（表 - 1）の平均は 3.72 であり、総合点が 4 点以上の高い評価を受けた科目は 56 科目（42%）である。3 点未満の低い評価を受けた科目は 17 科目（13%）で、その内 11 科目は 49 名以下の、6 科目は 99 名～50 名のクラスで、受講者の人数には総合点はあまり影響を受けてないようである。なお、半数弱の 61 科目は 3 点台の評価を受けた。

表 - 1 . 講義と実習等の総合評価

総合点	3.00 未満	3.00～3.99	4.00 以上	計
講義	15 科目 (17%)	49 科目 (56%)	24 科目 (28%)	87 科目
実習等	2 (4)	12 (26)	32 (68)	47
合計	17 (13)	61 (46)	56 (42)	134

\* 実習等には実験・演習を含む

講義と実習等と比較すると実習等の方が高い評価を受けている。すなわち、講義科目の

56%が3点台の評価を受けているのに対し、実習等の68%は4点以上の高い評価を受けている。また、3点未満の低い評価を受けた17科目中15科目が講義であった。

#### 4. 学生からのコメントの概要について

基礎科目15科目(68.2%)に92項目、専門科目58科目(51.8%)に243項目さらに科目の不記載34項目を加え合計73科目に369項目のコメントが寄せられた。

コメントの内容の主なものは授業内容そのものに関するものが約150件、パワーポイントや資料提示に関するもの59件、板書に関するものが40件、声が小さいなど話し方に関するもの26件、授業の延長など授業時間に関するもの23件、評価基準を含めテストに関するもの23件、複数教員による担当に関するもの13件、教員の熱意に関するもの9件、レポートに関するもの8件などである。その中身はポジティブ(よく理解できた、要望等)なものよりネガティブ(批判的、否定的等)なものが多い。

4点台の評価を受けた科目への学生からのコメントの実数は比較的少なく、その主なものはポジティブなものであった。3点台の評価を受けた科目の中には受講生31名中12名(39%)、66名中15名(23%)、29名中5名(17%)等がコメントし、その意見には賛否両論がみられた。2点台の評価を受けた科目に最も多数のコメントが寄せられ、その内訳は受講生48名中12名(25%)、184名中37名(20%)、91名中12名(13%)、70名中9名(13%)、73名中7名(10%)等であり、ネガティブな意見が多かった。

#### 5. 大人数クラスについて(図 - 1)

100名以上の大人数クラスが5科目あり、その内4科目は全科目の平均点3.72よりやや低いものの3点台の評価を受けたが、1科目は4.14と高い評価を受けた。先生方の努力もあろうかと思われるが、大人数クラスの弊害はあまり出てないように思われる。

専門基礎の解析学、物理学、化学、生物学等は大人数にならないように3クラスに分けて講義をしたが、クラスによって授業内容、試験内容・方法等が違うことに不満を示した。

一方、20人以下の少人数の科目が27あり、その内18科目(66.7%)は4点以上の高い評価を得ているが、2科目の実習は3点未満の低い評価を得ている。

#### 6. 3人以上の複数の教員が担当する講義について

3人以上の教員が担当する講義は11科目13クラスあるが、8科目10クラス(76.9%)は総合点が3点台と平均的な評価を受けている。4点台が1科目、2点台が2科目あった。

総合点で見ると、単独で開講する講義と遜色のないと言えるが、熱意のある教員とそうでない教員とのギャップが甚だしいとか教員間での連絡、協力が不十分であると指摘も見られる。

## 7. 非常勤講師担当科目について

非常勤講師が担当する科目は基礎科目に集中しており、6科目11クラスある。その総合点は1科目(3.98)を除いて平均点(3.72)より低い。特に3科目4クラスは2点台である。同様な傾向は16年度後期にも見られた。

## 8. 話し方・書き方

小さな声で呟くように、ボソボソと話されると何を言っているのか聞き取れない、ため息をつきながら、あるいは人を小ばかにしたような話し方はやる気をなくす等の指摘がある。板書が汚い、解読不能、書き方が早すぎる、多すぎる、小さいなど板書については約40件の苦情がある。一方で、重要なことはパワーポイントだけでなく板書して欲しいなどの要望も寄せられている。

## 9. 授業時間の使い方

ごく少数の授業で、先生が毎回遅れてくるとか、シラバス通りに実験が終わらず延長することが多いなどの苦情があったが、大部分の科目にはそのような指摘はなかった。ただ、板書が早く、あるいは、パワーポイントをどんどん流しノートが取れない、内容が理解できない、時間配分が悪く待機時間が多いなど授業の進め方に関する指摘はかなり見られた。

## 10. 学生のコメントから見た問題のある授業

以下は学生からのコメントを抜粋した、仮想の問題のある授業である。

基礎科目は、高校で選択していない人に配慮が足りず高校からのレベルのギャブが大きすぎ、また、クラスによって授業、テスト等が大きく異なる。

授業に毎度遅れ、講義の趣旨も良く分からないハードな内容を早いペースでどんどん進め、学生を小ばかにしたような発言をし、内容が教科書やシラバスから大きく離れたり、脱線し研究室の話とか世間話とか授業内容に関係のない独り善がりの話が多い。内容の多いパワーポイントや板書は早すぎノートを取ることもできず、教科書を小さな声で読みボソボソと独り言のように話し熱意が感じられず、あるいは偏った内容で説明、解説も足りない。配布されたプリントは英語で説明がなく、ひたすら書く板書は字が小さく、汚く解読不能で何を伝えたいのか良くわからない。実習では待機が多く無駄な待ち時間を過ごすことがあり、シラバスに書いてある時間に終わらず、毎度平気で時間延長する。

授業がエッセイなのに毎回膨大なレポートを課せられ、そして最後にテストまでキッチリやられ、結局、自主学習するしかない。

多数の先生が担当する科目では、先生によってバラつきがあり、先生同士が勝手に脈絡もない講義をし1人1人の講義が中途半端で終わってしまう。

講義をしてない内容がテストに出たり、どのようなテストをやるのか、出席点がいいるのか、評価の基準がよくわからない。

## 11 . 学生のコメントから見た良い授業

講義の趣旨・目的さらに評価基準をシラバスで明確にし、よく整理され体系付けられた内容を身近な例にも触れあまり難し過ぎず興味を引き出すような講義がよい。大きな声でゆっくり特に語尾を明瞭にマイクを使い、整理された内容をパワーポイントで示し、重要なことは板書やプリントを配布、さらにパワーポイントの内容、参考資料あるいは過去問などを e-learning(AIMS)に載せると良い。講義には質問し易い雰囲気学生ともコミュニケーションを取りながら熱意を持って進めて欲しい。講義と実習の内容を平行して進め理解が深まるような配慮を、さらに、レポートの書き方を実際に示してもらいたい。きちんとまとまったプリントで大事なところを確認しながら授業を進め復習できるような、終わっても受けたくなくなるような、そんな授業が良い。

図 2 受講生数と総合評価

